

ACO ふれんど事業所自己評価シート（児童発達支援）

保護者による評価

職員による自己評価

実施：令和8年3月
回収6名
(回収率60%)

A環境面

- 1.活動のスペース確保
100%確保されていると評価された。
- 2.職員の専門性・配置数
100%の適切であると評価された。

3.設備

バリアフリー化の配慮がされているとの評価は100%であった。

B児童への支援内容

- 4.個別支援計画作成
客観的に作成され分かりやすく説明されているという評価は100%だった。

5.活動プログラムの工夫

83%が工夫されているという評価であった。

C事業所からの情報発信

6.利用者負担や支援内容の説明

100%が口頭で丁寧な説明やコドモンが活用できているという評価であった。

7.子どもの状況や発達課題での保護者との共通理解

100%できているという評価であった。意見の中には個別的によく見て関わっていただけているという評価もあった。

8.保護者面談や育児相談の支援

100%が適切に行われているという評価があった。

9.保護者会など保護者同士の連携

83%の評価であり、前年度と比較して32%向上した。

実施：令和8年3月 回収3名（回収率100%）

A環境面

1. 訓練室等スペース 100%確保されているとの評価だった。

2. 職員の配置数

67%が適切であるという評価だった。前年度と比較して10%ほど上昇した。曜日やタイミングで人手が足りなくなるタイミングがあるものの、連携して対応できているという意見もあった。

3. 設備においてバリアフリー化の配慮

33%適切であるという評価だった。玄関前の段差などには簡易スロープを設置しているものの、二階へ上がる階段などもあり、バリアフリーにしきれない部分があると思われる。

B業務改善

4. 業務改善を進めるための参画

100%が評価していた。業務改善委員などで改良されていることが要因と思われる。

5. 保護者の意向を把握し業務改善につなげているか

100%の評価で、業務改善につながっていると評価されている。

6. 自己評価結果の公開 100%が適切に公開しているという評価だった。

7. 外部評価について、

100%が外部からの評価を業務改善につなげていると評価している。

8. 研修の機会確保

100%が評価しており、研修により質の向上を図っている評価を得た。

C適切な支援の提供

9. 客観的分析による個別支援計画の作成

100%が適切にできているとの評価だった。

10. 標準化されたアセスメントツールの使用

100%が使用できていると評価している。

11. 活動プログラムの立案

100%がチームで行うことが出来ていると評価している。

12. 活動プログラムの工夫

100%が固定化しないよう工夫していると評価している。

13. 課題設定に応じた支援内容 100%が出来ていると評価している。

14. 子どもの状況に応じた支援計画の作成

100%が出来ていると評価している。

15. 支援開始前の打ち合わせ 100%が出来ていると評価している。

16. 支援終了時の振り返り

68%が出来ていると評価している。ケース数が多い曜日などは振り返りが遅くなってしまうことなどが問題点として挙げられた。

17. 記録の徹底、支援の検証・改善 100%が出来ていると評価している。

D関係機関と保護者との連携

18. 定期的なモニタリングによる個別支援計画の見直し

100%が出来ていると評価している。

19. ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせた支援

100%が出来ていると評価している。

20. 相談支援のサービス担当会議への参画

67%が適切な人材が参画していると評価している。相談支援を利用している利用児が横浜市は少ないことも要因であると思われる。

21. 学校との情報共有、連絡調整 100%が適切に行っていると評価している。

22. 医療的ケアの子どもの受け入れ、主治医との連携体制

どちらともいえないが66%で、分からないという回答も多く、これは対象児がいないことが要因だと思われる。

10.苦情に対する対応
100%が適切に対応しているという評価であった。

11.意思疎通や情報伝達のための配慮

100%適切であるとの評価を得た。

12. 情報発信について

100%が適切であると評価している。

13.個人情報について

83%は十分に注意しているという評価であった。

D 非常対応

14.緊急時対応、防犯、感染症対応について、

100%が適切に対応しているという評価している。

15.非常災害の訓練

83%が適切に行われていると評価している。

前年度と比較して10%ほど良い評価が増えている。

E 満足度

16.通所を楽しみにしている

評価は100%であった。前年度と比較して微減している。

17.支援への満足

評価は100%であった。

23. 就学前に利用していた幼稚園や保育園など、発達支援事業所との情報共有と相互理解
67%が出来ていると評価している。情報共有が十分に行えていない部分もあるのではないかと
いう記述があった。

24. 事業所を移行するときの情報提供 100%が出来ていると評価している。

25. 専門機関との連携や助言・研修の活用 100%がどちらとも言えないと評価されている。連携はできている利用児も多いものの、周知されていないことが要因だと思われる。

26. 障がいのない子どもとの交流

67%がどちらでもないという評価している。障害児通所支援事業のため、交流の機会が少ないことについては理解されている。

27. 地域自立支援協議会等への参加 67%が出来ていると評価している。

28. 利用者に関する保護者との共通理解 100%が出来ていると評価している。

29. ペアレントトレーニング等の保護者支援

100%が出来ていると評価している。保護者会の開催に合わせて、研修等の機会が向上していることも要因であると思われる。

E 保護者への説明責任

30. 運営規定、支援内容、利用者負担額の説明

100%が丁寧な説明を行っているという評価がある。職員1人1人が責任を持って取り組めるようになっていることが要因だと思われる。

31. 保護者からの相談対応の支援 100%が出来ていると評価している。

32. 保護者同士の連携の支援 100%が出来ていると評価している。

33. 苦情対応 100%ができていると評価している。

34. 情報の発信 100%ができていると評価している。

35. 個人情報への留意 100%ができていると評価している。

36. 利用者への情報伝達の配慮 100%ができていると評価している。

37. 地域住民との交流

67%の評価で、どちらでもないという評価が多かった。こちらも障害児通所支援事業ということから、交流の機会が少ない現状がある。

38.マニュアルの策定・周知 100%ができていると評価している。

39.非常時の訓練 100%ができていると評価している。

40.虐待防止への取り組み 100%ができていると評価している。

41.身体拘束の説明 100%ができていると評価している。

42.アレルギーの配慮 100%ができていると評価している。

43.ヒヤリハットの作成・周知 100%ができていると評価している。

事業所内での分析

【共通点】

環境面：バリアフリーに関しては保護者に関しては評価が高く、職員は課題があるという評価であった。施設の外に階段がある一方で、室内はジョイントマットで敷き詰められていることがバリアフリーになっているという評価につながっていると思われる。配置数は保護者としては問題があると感じていないものの、職員は人員が足りないと感じているという結果になった。このことから支援場面でない部分での人員不足があると考えられる。

児童への支援内容：職員・保護者ともに評価が高い内容が多かった。保護者からは個別に合わせた支援の質の高さや、フィードバックの丁寧さなどで好評をいただくことが多かった。職員からも支援に対しては保護者からも信頼を得ているという評価があり、一方、チームで対応する支援に関しては振り返りができていないという不安の声があった。それぞれの考えなどを共有する時間を現状以上に取る必要があると思われる。

事業所からの情報発信：保護者会や連携会議の認知度が、広報誌等により高まり、前年度よりも高い評価を得られている。職員1人1人が保護者にアプローチすることで、職員自体の意識も変わり、向上につながったと考えられる。

非常対応：前回よりも高評価となった。避難訓練は保護者を巻き込み、連絡ツールも活用したことで認知度が向上していると思われる。

保護者への説明等：全体的に高評価ではあるものの、保護者同士の連携や、地域住民との関わりに関しては実際にできていないことが多いため、工夫が必要であると考えられる。

分析・検討してみても…

事業所の強み

- ・ 支援の質の高さや個人に合わせた対応という点では高い評価を得られている。
- ・ 事業所の環境面でも広いこと・バリアフリーになっていることも評価されている。
- ・ 情報発信力が高まり、これまで認知されにくかった保護者交流会や、避難訓練などの情報が周知されやすくなり、情報が保護者にも行き届きやすくなっている。

事業所の改善点

- ・ 職員自身関わっていない業務（連携会議、自立支援協議会等）の認知度が低い
ため、事業所内での情報共有を厚くしていく。
- ・ 地域社会とのつながりを感じられることが少ない。ただ、畑を借りてのイベントなど地域に連携したものもあるため、保護者含め全体の認知度を上げていく工夫が必要である。
- ・ 評価アンケートの回収率を上げるため、次年度以降はネット環境での調査・収集も検討する。

事業所の改善への取り組み

環境面：

- ① 職員配置について、法人全体の人材募集を見直し、改善を図る。

支援内容：

- ① 引き続き専門性を生かした支援を提供していく。
- ② 振り返りの時間を現状以上に多く設け、情報共有や支援の質向上に努める。

情報発信：

- ① ICT ツールを活用し、より広く情報が知られるように工夫をする。
- ② 連携会議等、利用していない保護者や職員にも存在が認知されるよう発信していく。
- ③ 地域に向けて情報を発信し、また事業所としても地域の情報を受け取り、活用していく。

非常対応：

- ① 非常時の対応、マニュアルをすべての職員が把握し、対応を行えるよう内部研修を行う。
- ② 災害備蓄や避難場所の確認、スムーズな誘導が行えるよう避難訓練を行う。
- ③ 活動中の対応について保護者と事前の取り決めをしておき混乱の生じないよう対応する。

～自己評価を行っての事業所としての感想など～

前年度の反省を生かし、情報発信力を高めると同時に、保護者会や避難訓練などの機会を増やしたことで、保護者や職員自身の認知度や満足度が向上していた。職員体制等で保護者よりも職員側が不安に感じていることが分かったため、法人全体で人員確保等に努めてもらうよう、責任者として働きかけていく。チームで行う支援に関しては振り返りなども含め、より職員同士の連携を密にして取り組めるよう、機会を設定することや、意識的にこちらからも情報を収集していく。

事業所名 ACO 放課後等デイサービスふれんど

担当者：高橋 実沙